

調 書

種別	史跡
名称及び員数	せんげんづか 浅間塚古墳 1基
所在の場所	芳賀郡益子町塙2342-1の一部、2343-1の一部、2347-1の一部
所有者の氏名又は名称及び住所	栃木県 宇都宮市塙田1丁目1番20号
寸法及び形式等	現況及び所見のとおり
年代又は時代	現況及び所見のとおり
指定の適否	(適) 不適

現 況 及 び 所 見

浅間塚古墳は、県立益子芳星高等学校の敷地内に所在する古墳時代前期の前方後方墳である。東側を南流する小貝川によって形成された沖積低地に面する段丘の東端に位置する。さらに詳細に観察すると、本古墳は沖積低地と西側の開析谷に挟まれた舌状台地の先端頂部に占地していることが分かる。

墳丘の規模は、全長約 52 m、後方部長約 28 m、同幅約 28 m、同高約 4 m、前方部長約 24 m、同幅約 20 m、同高約 3.5 m で、前方部を東面して築造されている。葺石などの外表施設は認められない。古墳の周辺には後世の改変が認められるものの、墳丘の保存状態は良好である。埋葬施設は不明であるが、後方部墳頂下に竪穴系の埋葬施設があると推定される。また、出土遺物は不明である。

墳丘の周囲には、北側から西側にかけてわずかに窪みがあり、周溝の痕跡とみられる。さらに、南側及び東側には墳丘の周囲に幅約 10～15 m の平坦な面が認められる。この平坦面は南東側は通路の開削及び攪乱によって判然としないが、古墳築造時に地山を整地することにより形成されたものと推定される。つまり、本古墳の北側から西側にかけては周溝により墳丘と台地頂部を画し、南側から東側には平坦面を形成することによって、小貝川方向から望見する際、墳丘の存在を際立たせていたと思われる。

芳賀郡においては、古墳時代前期の前方後方墳が浅間塚古墳を含めて 6 基確認されている。本古墳は他の前方後方墳に比べて、後方部に対する前方部高及び前方部長が大きく、前方部が発達していることから、他より築造年代が若干下降する可能性が指摘されている。本古墳の南約 6 km に所在する山崎 1 号墳は、出土遺物から 4 世紀第 2 四半期の所産と推定される。これを定点とすれば、本古墳は 4 世紀中葉から後葉の築造と考えられる。

県内の古墳の総数は約 7000 基と推定されているが、このうち前方後方墳はその可能性が指摘されているものも含めてわずか 22 基であり、希少性が高い。また、これらの多くは本来の形状が損なわれているのに対し、本古墳の墳丘は後世の人為的な改変がほとんど認められず、保存状態が良好であり、本県の古墳時代前期の古墳の立地や形状を知る上で貴重な資料である。また、本古墳は益子芳星高等学校の敷地内にあり適切な管理が行われており、地域の歴史学習での活用が期待される。さらに、芳賀郡ばかりか本県の古墳文化の展開を知る上で欠くことのできない古墳であると考えられる。以上の観点から、指定し保存すべきものと思われる。

(橋本澄朗)

調査年月日	平成 27 年 12 月 4 日
調査委員氏名	橋本澄朗 酒寄雅志 千田孝明 高山慶子